

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 2020年度 前期月3, 木2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 044101) フランス語Ⅰ (1) FrenchⅠ フランス語Ⅰ FrenchⅠ	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 モーリエール フランソワ, 金澤 忠信	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標 フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準 平常点 (出席および授業への積極的な参加) 40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。			
【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・ 毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・ 進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・ 付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。			
【授業計画】 ・ 第1回?第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) ＊途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・ 学期末試験			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 ・ 準備学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ・ 事後学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ※語学は一度にまとめてやろうとしても身につけません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。			
教科書・参考書等 月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜: 江島泰子『ラルカンシエール (L'arc-en-ciel)』第三書房 木曜: 田辺保子ほか『ヴァズィ! (VAS-Y!)』駿河台出版社 辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないで、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 2020年度 前期月3, 木3	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 044102) フランス語Ⅰ (2) FrenchⅠ フランス語Ⅰ FrenchⅠ	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 園部 裕子, 太田 陽子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標 フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準 平常点 (出席および授業への積極的な参加) 40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。 【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。 【授業計画】 ・第1回?第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) *途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・学期末試験 【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 ・準備学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ・事後学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ※語学は一度にまとめてやろうとしても身につけません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。			
教科書・参考書等 月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜: 江島泰子『ラルカンシエール (L'arc-en-ciel)』第三書房 木曜: 田辺保子ほか『ヴァズィ! (VAS-Y!)』駿河台出版社 辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないで、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 2020年度 前期月3, 木2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 044103) フランス語Ⅰ (3) FrenchⅠ フランス語Ⅰ FrenchⅠ	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 金澤 忠信, 太田 陽子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標 フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準 平常点 (出席および授業への積極的な参加) 40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。			
【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。			
【授業計画】 ・第1回?第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) *途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・学期末試験			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 ・準備学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ・事後学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ※語学は一度にまとめてやろうとしても身につけません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。			
教科書・参考書等 月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜: 江島泰子『ラルカンシエール (L'arc-en-ciel)』第三書房 木曜: 田辺保子ほか『ヴァズィ! (VAS-Y!)』駿河台出版社 辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないで、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 2020年度 前期月4, 木2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 044104) フランス語Ⅰ (4) FrenchⅠ フランス語Ⅰ FrenchⅠ	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 モーリエール フランソワ, 園部 裕子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標 フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準 平常点 (出席および授業への積極的な参加) 40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。			
【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。			
【授業計画】 ・第1回?第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) *途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・学期末試験			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 ・準備学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ・事後学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ※語学は一度にまとめてやろうとしても身につけません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。			
教科書・参考書等 月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜: 江島泰子『ラルカンシエール (L'arc-en-ciel)』第三書房 木曜: 田辺保子ほか『ヴァズィ! (VAS-Y!)』駿河台出版社 辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないで、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 2020年度 後期月3, 木2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 044201)	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
フランス語Ⅱ (1) French Ⅱ フランス語Ⅱ French Ⅱ	授業形態 講義 グル ープワーク	単位数 2	
担当教員名 園部 裕子, 太田 陽子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的			
フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標			
フランス語検定試験 4 級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準			
平常点 (出席および授業への積極的な参加) 40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。			
【学習の方法】			
受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。			
【授業計画】			
・第1回?第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) ＊途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・学期末試験			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】			
・準備学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ・事後学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ※語学は一度にまとめてやろうとしても身につけません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。			
教科書・参考書等			
月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜: 江島泰子『ラルカンシエール (L'arc-en-ciel)』第三書房 木曜: 田辺保子ほか『ヴァズィ! (VAS-Y!)』駿河台出版社 辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないで、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 2020年度 後期月3, 木3	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 044202)	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
フランス語Ⅱ (2) FrenchⅡ フランス語Ⅱ FrenchⅡ	授業形態 講義 グル ープワーク	単位数 2	
担当教員名 金澤 忠信, 太田 陽子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的			
フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標			
フランス語検定試験 4 級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準			
平常点 (出席および授業への積極的な参加) 40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。			
【学習の方法】			
受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・ 毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・ 進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・ 付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。			
【授業計画】			
・ 第1回?第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) ＊途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・ 学期末試験			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】			
・ 準備学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ・ 事後学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ※語学は一度にまとめてやろうとしても身につきません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。			
教科書・参考書等			
月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜: 江島泰子『ラルカンシエール (L'arc-en-ciel)』第三書房 木曜: 田辺保子ほか『ヴァズィ! (VAS-Y!)』駿河台出版社 辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないで、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 2020年度 後期月3, 木2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 044203)	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
フランス語Ⅱ (3) French Ⅱ フランス語Ⅱ French Ⅱ	授業形態 講義 グル ープワーク	単位数 2	
担当教員名 モーリエール フランソワ, 園部 裕子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的			
フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標			
フランス語検定試験 4 級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準			
平常点 (出席および授業への積極的な参加) 40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。			
【学習の方法】			
受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・ 毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・ 進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・ 付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。			
【授業計画】			
・ 第1回?第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) ＊途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・ 学期末試験			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】			
・ 準備学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ・ 事後学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ※語学は一度にまとめてやろうとしても身につけません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。			
教科書・参考書等			
月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜: 江島泰子『ラルカンシエール (L'arc-en-ciel)』第三書房 木曜: 田辺保子ほか『ヴァズィ! (VAS-Y!)』駿河台出版社 辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないで、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 2020年度 後期月4, 木2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 044204)	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
フランス語Ⅱ (4) French Ⅱ フランス語Ⅱ French Ⅱ	授業形態 講義 グル ープワーク	単位数 2	
担当教員名 モーリエール フランソワ, 金澤 忠信	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的			
フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標			
フランス語検定試験 4 級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準			
平常点 (出席および授業への積極的な参加) 40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。 【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。 【授業計画】 ・第1回?第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) *途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・学期末試験 【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 ・準備学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ・事後学習: 1時間×週2回×15週=30時間 ※語学は一度にまとめてやろうとしても身につきません。毎回少しずつ、継続するのがコツです。			
教科書・参考書等			
月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜: 江島泰子『ラルカンシエール (L'arc-en-ciel)』第三書房 木曜: 田辺保子ほか『ヴァズィ! (VAS-Y!)』駿河台出版社 辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないもので、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのに時間がかかりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-1N-Lg1	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 2020年度 前期月2	対象年次 2～
授業科目名 (時間割コード: 044301)	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
フランス語Ⅲ (1) French Ⅲ フランス語 III French III	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 園部 裕子	関連授業科目 フランス語会話III、ヨーロッパ文化論		
	履修推奨科目 フランス語I, II		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要			
フランス語でのスピーチ力を目的とした教科書を用い、自己紹介や、自分の生活、自分の住んでいる地域、過去の経験、将来の夢などについて、フランス語で説明できるようになる。またフランスを含め海外の時事問題、文化、社会、生活などについての知識・情報を得たうえでディスカッションをする。			
授業の目的			
1年次のフランス語I, IIで学んだ基本的な文法・語彙や慣用表現を復習したうえで、フランス語の長文を読み、フランスの文化や社会について学ぶための基礎を身につける（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応）。			
到達目標			
初級で学んだ語彙・文法を実践的に使用することができる。フランス語の学習を通じて、広く世界に目を向けることができる。フランス語で自分のことを紹介・説明したり、フランス語で書かれた文書・資料を部分的にでも自分の力で読めるようになる。仏検3級合格程度のフランス語力を獲得する。			
成績評価の方法と基準			
平常点（授業への参加）、中間試験、期末試験により、総合的に評価する。平常点40%、中間試験30%、期末試験30%。少なくとも2/3（10回）は出席すること。ただ、授業に出席するだけでは平常点は与えられない。積極的な参加・発表が評価の対象となる。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 教科書は全部で10課および読み物が2つある。可能な限り1回で1課進む。与えられたテーマについてフランス語で発表し、学生どうしでディスカッションする。各課の練習問題が宿題として課されることがある。詳細は初回の授業で指示する。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション（この授業の概要、単位の取り方、学習の仕方の説明） 第2～6回 5課分プラス読み物1 第7回あるいは第8回 中間試験 第8～15回 5課分プラス読み物1 学期末試験			
【自学自習に関するアドバイス】 予習として、まず自分で文章に目を通し、分からない単語をチェックして、辞書で意味・用法などについて調べておく。新しい語彙や文法事項はそのつどしっかり覚え、復習する。出された宿題は必ずやる。			
教科書・参考書等 横道朝子、『フランス語でスピーチしてみよう！（C'est a vous!）』、朝日出版社、2,200円＋税（生協の書籍部にて購入）。			
オフィスアワー 木曜4校時。ただし、まず授業時に相談すること。幸町南キャンパス3号館2階、金澤研究室。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ディスカッションをするアクティブラーニング型の授業です。履修希望者が偏った場合、他クラスと人数調整することがあります。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-1N-Eg1 授業科目名 (時間割コード: 044401) フランス語会話Ⅲ (1) French conversation Ⅲ French conversation Ⅲ	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 2020年度 前期木3	対象年次 2～
	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 園部 裕子	関連授業科目 フランス語		
	履修推奨科目 フランス語		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要			
挨拶、趣味、持ち物、人物の描写などについて、フランス語を使って口頭で表現する練習をする。フランス語をたくさん聞いたり、会話したりする作業が中心の、アクティブラーニング方式の授業です。間違っていてまったく気にしなくて良いので、とにかく声を出し、たくさん発言してもらいたい。			
フランス語を使って話をしてみたい学生を歓迎します。			
【他の授業科目との関連】			
フランス語会話Ⅲは、口と耳を使う訓練を中心に行う。フランス語Ⅲは、文法項目の学習に基づいた言語運用能力の向上をめざす授業になる。合わせて総合的なフランス語運用能力の向上を目指す。			
授業の目的			
・ 共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 ・ 1年目の既習文法を使いこなすことが目的。 ・ フランス語に慣れ、聞き取りと会話能力を少しずつのばす。			
性数の一致と冠詞・所有形容詞に気をつけ、動詞の現在形の活用を使ってやりとりできる。 ・ 持ち物、趣味、人物などについて、短いやりとりができる程度の能力 (DELF A2程度*) が身につく。 *DELFはフランス国民教育省認定の公式フランス語資格			
到達目標			
・ 性数一致に気をつけて冠詞・所有形容詞を使える。 ・ 動詞の現在形の活用を使える。 ・ 挨拶、人物描写などについての短い会話を聞いて、どのような場面かを説明できる。 ・ 自分と家族など身近な人物を紹介する expose (2分程度の発表) をフランス語でできるようになる。			
成績評価の方法と基準			
日常点(積極的な参加) 30%、〈フランス語の問題集〉の宿題提出状況10%、授業の成果としての自己&知人紹介30%、学習した内容についての筆記期末試験30% などにより総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1年目に学んだ基礎文法、動詞の現在形の活用を使いこなせるようにするための授業。 身の回りの物・趣味・性格や特徴についての語彙を学んで、口頭で使ってみる。とくに性数一致に気をつけて発音する練習を続けて、自己&知人紹介ができるようにする。			
*授業中に使う課題は、外国語としてのフランス語 (Francais Langue Etrangere: FLE) 学習用にフランスで発行された教材を中心に、日本人向けの聞き取り教材、インターネット上の音源などから用意する。			
【授業の課題】			
○自分および、自分と性別の違う知人(家族、友人など)についての紹介を2分程度の自己&知人紹介として準備し、最終回に発表する。 ○既習文法項目(性数一致、冠詞・所有形容詞、動詞の現在形の活用)について〈フランス語で書かれた問題集〉を宿題にし(10回程度)、期末試験とする。			
【方法】			
・ アクティブラーニング形式で、グループ学習で進行する。 ・ 授業中の質問をフランス語するためのセリフを暗記し、使ってみる。 ・ 持ち物、趣味、人物描写などの語彙を学び、口頭でやりとりの練習をする。 ・ 聞き取り教材を聞いて、どのような場面かを説明するためにディスカッションする。 ・ 早口言葉や歌で口を動かす練習をする。			
【自宅学習】			
・ 〈フランス語で書かれた問題集〉の宿題を解く。 ・ 次回のプリントの単語調べなど予習をする。 ・ Moodle上の教材を用いて、聞き取り・発音練習をする。 ・ 自己&知人紹介を準備し、練習する(授業の後半)。			

【授業の計画】

- (1) 授業の進め方・前置詞の再確認
 - (2)～(4) 知り合う・自己紹介する *早口言葉 1
 - (5)～(7) 身の回りの物の説明をする
 - (8)～(10) 趣味を言う *早口言葉 2
 - (11)～(13) 性格や特徴を言う *Chanson
 - (14) 復習とまとめ、リハーサル
 - (15) 自己&知人紹介expose oral
- 期末試験

教科書・参考書等

基本的に印刷資料を用意する。この授業用にファイルを用意して管理すること。
辞書は毎回、持参すること。
参考書については、必要に応じて指示する。

オフィスアワー オフィス・アワー：予め連絡・予約すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

最初の授業に出席すること。この授業は、受講生の自宅学習による準備と授業中の積極的な参加がなければ進行しない。課題を怠る、頻繁な欠席や遅刻、居眠り等は授業の進行を妨げ、他の受講生の迷惑にもなるので慎むこと。改善しない場合、学期途中でも受講を断り、単位を認定しない場合がある。

【受講者数の調整を行う場合がある】

ナンバリングコード B2FRA-abxG-1N-Lg1	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 2020年度 前期木3	対象年次 2～
授業科目名 (時間割コード: 044402) フランス語会話Ⅲ (2) French conversation Ⅲ フランス語会話ⅢⅢ French Conversation ⅢⅢ	水準 学士: 基礎科目 分野 フランス語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 金澤 忠信	関連授業科目 ヨーロッパ文化論、ヨーロッパ社会論、外国語演習Ⅰ(フランス語)、外国語演習Ⅱ(フランス語) 履修推奨科目 フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、フランス語ⅢⅢ		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 各課が会話文から始まる教科書を用いる。会話はボルドーが舞台で、ボルドーで撮影されたビデオ教材もあるので、それを見ながらフランス語を学習する。ペアになってフランス語でコミュニケーションを行う。			
授業の目的 フランス語を読み、書き、話すことで、表現力やコミュニケーション能力を向上させる。異文化について開かれた態度をとれるようになるとともに、一つ以上の外国語において、読み、書き、聞き、話すための基礎的な能力を身につける。			
到達目標 「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」で身につけた基本的な文法や語彙を実際に使い、正確かつ適切なフランス語を書くことができる。簡単な挨拶や短い慣用句を暗記するだけでなく、自分の頭の中で文章を組み立てて、自分の考えをフランス語で表現することができる。			
成績評価の方法と基準 平常点(授業への参加)、中間試験、期末試験により、総合的に評価する。平常点40%、中間試験30%、期末試験30%。※授業に出席するだけでは平常点は与えられない。積極的な参加・発表が評価の対象となる。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 基本的に1回の授業で1課ずつ進んでいくが、授業回数の関係で、いくつかの課は飛ばす。これについては授業のなかで説明する。各課の会話の音声聞いて文章を理解し、表現を練習する。身につけた表現を実際にペアあるいはグループで使って会話する。ビデオ教材を見て現地の実際の様子を知る。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション(この授業の概要、単位の取り方、学習の仕方の説明) 第2～7回 教科書第1～7課(1つないし2つ飛ばす) 第8回 中間試験 第9～15回 教科書第8～15課(1つないし2つ飛ばす) 学期末試験			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 ・準備学習: 1時間×15回=15時間 ・事後学習: 1時間×15回=15時間 ※予習・復習および宿題(各課の練習問題)を毎回必ずやってください。そして覚えた語彙・表現は授業のなかで実際に使ってみることが大切です。			
教科書・参考書等 フロランス・容子・シュールドルほか、『カフェ・フランセ2(Cafe Francais 2)』、朝日出版社、2,500円＋税(生協の書籍部にて購入)。			
オフィスアワー 木曜4校時。ただし、まず授業時に相談すること。幸町南キャンパス3号館2階、金澤研究室。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 基本的に全学共通科目の「フランス語Ⅰ」および「フランス語Ⅱ」を修得していることが履修の条件です。履修希望者が偏った場合、他クラスと人数調整することがあります。			

